

## 緑のカーテンについて

### 【概要】

「ゴーヤ」や「アサガオ」などのつる性の植物を、窓の外や壁面に張ったネットなどにはわせて、カーテンのように覆ったものを「緑のカーテン」といいます。緑のカーテンは日光をさえぎるので、室内の温度を低く保つことができます。

また、エアコンの冷房を同じ温度に設定しても、室内温度が高いと、電力を多く消費します。緑のカーテンがあると、エアコンの消費電力を抑える省エネ効果が得られます。

市では、中部電力株式会社からアサガオ、ゴーヤ、フウセンカズラの種を提供していただき、緑のカーテンづくりに取り組んでいます。その一環として、緑のカーテン栽培育成のための苗と種を、無料で配布します。

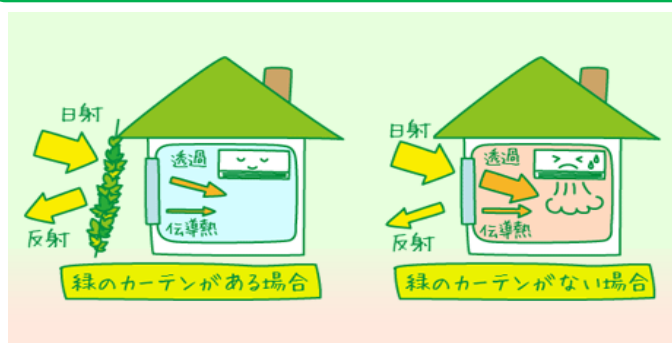
と き 6月1日(土) 11時から(無くなり次第終了)  
ところ 鈴鹿ハンター 1階 インフォメーション南側  
配布予定数 苗 200株、種 150袋(個人1人につき苗1株または種1袋)  
申込み 不要

【問い合わせ先】 環境政策課 担当 尾崎、山本、木村  
(電話：382-7954 内線：3413、3414)

### 【参考】

#### ○緑のカーテン 省エネ効果

①緑のカーテンがある部屋とない部屋を比べてみました！

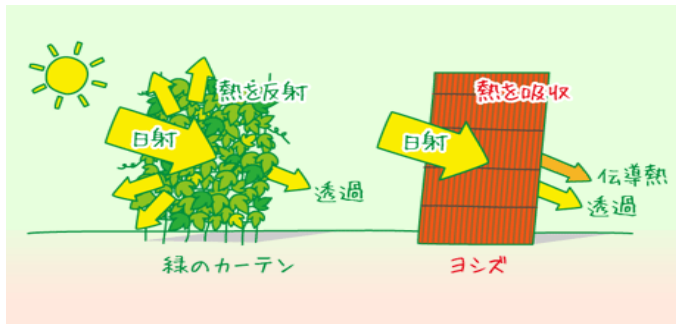


緑のカーテンがない部屋では、日光をさえぎるものがないので、太陽の熱によって壁やガラスが暖められます。その熱は部屋の中にも伝わるため、結果的に部屋の温度が高くなります。

一方、緑のカーテンがあると、日光をさえぎり、熱の原因となる赤外線のことを多くを反射するため、部屋の中の温度を低く保つことができます。エアコンの冷房を同じ温度に設定しても、温度が高い部屋はその分だけ負荷がかかるため、電力を多く消費します。

緑のカーテンは、エアコンの消費電力をおさえるという省エネ効果があります。

## ②緑のカーテンとヨシズを比べてみました！



夏の日差しをさえぎる道具として、日本には昔からヨシズがあります。

緑のカーテンもヨシズも同じ植物ですが、一番大きな違いは、緑のカーテンは生きているということです。

ヨシズは、乾燥させた植物の茎を編んで作ったものです。日光をさえぎることはできても、長時間日光に当たっているとヨシズ自体が暖まり、その熱を部屋の中に伝えてしまいます。

一方、緑のカーテンは、地面から吸い上げた水を茎の中に蓄え、葉の表面から水を蒸発させて、自分自身が熱くならないように工夫をしています。それが植物のラジエーター効果です。

※中部電力ホームページ「緑のカーテン省エネ効果」より抜粋

○つる性植物について

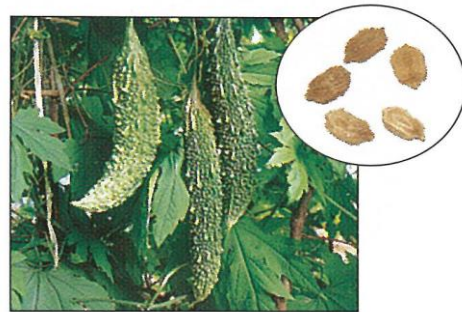
・ゴーヤ（ニガウリ）

植えつけ：（5月～6月）

開花期：（7月～9月）

発芽適温：25℃～30℃

つるの長さ：3～4メートル



・アサガオ

植えつけ：（4月～6月）

開花期：（7月～9月）

発芽適温：25℃

つるの長さ：3メートル以上



・フウセンカズラ

植えつけ：（4月～6月）

開花期：（7月～10月）

発芽適温：20℃～25℃

つるの長さ：2～3メートル



※中部電力配布資料より抜粋